はじめまして PTA

知り合いが増えた

親育ちできた

子どものことがよくわかる

学校が身近に感じる

公益社団法人 日本ＰＴＡ全国協議会

ＰＴＡは『社会教育団体』です。

「社会教育」って聞き慣れない言葉かと思いますが、社会において行われる教育のことを言います。学校で行われるのが「学校教育」、家庭で行われるのが「家庭教育」それと並んで、大切な教育が「社会教育」です。

子どもたちは家庭・学校・地域を行ったり、来たりしながら、生活し学び、成長します。家庭のしつけが学校での学習に生き、学校で学んだ友人関係が地域に繋がります。子どもの成長は時と場所を選ばず継続していきます。

またＰＴＡは成人教育の場でもあります。より良い保護者・先生であるためには、自ら学びや研修に励む必要があります。より良い大人であることが、子どもたちの健全育成のためには大切なことです。ＰＴＡの幅広い活動を通して、私たちも共に学び、成長していけるそんな組織がPTAです。

日本PTAからのメッセージ

公益社団法人日本ＰＴＡ全国協議会
会 長　東　川　勝　哉

なんとなく理解しているけども、そもそも何故ＰＴＡは必要なのか。

ＰＴＡの経験者からは「大変だけどやってみたらとても良かった」との声は全国で多く聞かれます。また一方で「やっぱり、大変だ、負担が大きい」などの声も少なからず聞こえてきます。

ＰＴＡは子どもたちの健全な育成に大きく寄与し、保護者を始めとする大人の学びの場としても機能していることは、戦後日本にＰＴＡの考え方が導入され今日までの約70年で実証されています。

本パンフレットは、ＰＴＡに対する素朴な疑問として挙げられる点をわかりやすくご紹介しています。

ＰＴＡの成り立ち、必要性などご理解頂き、教育の原点は家庭にあること、そして保護者は学校や地域と連携・協働しながら子どもたちを未来へ導く責務を持っていることを認識頂けますと幸甚でございます。

日本ＰＴＡで刊行している書籍類

ＰＴＡって なに？

どのようにできたのですか

ＰＴＡは、昭和20年に当時の文部省が発表した「新日本建設の教育方針」から歴史が始まります。その後、アメリカから派遣された教育の専門家による、戦後の日本の教育に関する基本的な方向性を示す、米国教育使節団報告書によってＰＴＡの設立と普及を推奨する方針が掲げられ、文部省を通じて、全国的にＰＴＡの指導、支援を行ったことから広まりました。

当時の文部省が作成したＰＴＡ結成手引書の中には、ＰＴＡの趣旨として、「子どもたちが正しく健やかに育っていくには、家庭と学校と社会とが、その教育の責任を分けあい、力を合わせて子どもたちの幸せのために努力していくことが大切である」と謳われています。

家庭教育の充実を図り、学校・地域と連携して子どもたちのために活動する団体として全国に広まりました。こうして始まったＰＴＡはさらに、社会の宝である子どもたちのために、地域ごとや都道府県単位の協議会が組織されるようになり、全国組織の必要性から日本ＰＴＡがつくられました。

はじめてみませんか♪

はじめてＰＴＡの話を聞くのは、小学校の入学説明会に参加した時だと思います。

いきなりＰＴＡ本部の方に、学年委員、をやりませんか？と言われても困ってしまいますよね。「そもそもＰＴＡって何だろう？」と思うのもこの時かもしれませんね。簡単に言ってしまいますと、自分の子どものために何かできる事はないかな。と思う保護者と先生の集まりです。さらに、近所の子どもたちのためになるのだったら、忙しいけど、少し協力してみようかと思う気持ちだと思います。難しく考えないで気軽に参加してみてください。

今の学校に関係する人は、先生、保護者の他に地域の人たちがいます。自治会長さんや民生委員、学校ボランティアの方、地域によって呼び方は違いますが多くの方が子どもたちのために協力をしていただいています。子どもたちにとっても、先生や保護者以外の大人と接する良い機会だと思います。できることから少しずつ参加してみましょう。

どんなことをするの？

ＰＴＡの活動は、それぞれの学校によって色々あります。それぞれのＰＴＡが歩んできた歴史によるところが大きいかと思います。

例えば、バザー、廃品回収、書き損じはがきの回収、模擬店、ベルマーク集め等の活動をしているＰＴＡは多いのではないでしょうか。それぞれに所属する保護者が学校に集まり打ち合わせをしたり、様々な場所で活動します。

多くの保護者に参加をしてもらいたいところですが、核家族化、共働き、ひとり親世帯など家族のあり方の変化に伴いＰＴＡ活動も多様化し、それぞれの保護者ができる事を少しづつ持ち寄り活動するように変わりつつあります。

ＰＴＡ活動の中には研修会への参加や会議の進行のやり方を学ぶ機会があります。自分自身が成長し、生活環境、教育環境の改善などにヒントを得られますし、学びの支援を考えるきっかけにもなります。

子どもたちのために、自分のできることを探して、みんなで協力していきましょう！新たな出会いや、気づきが得られる素晴らしい機会となります。肩の力を抜いて楽しんでいきましょう!!

なぜ必要なの？

あなたは大切なお子さんを誰の手も借りず、安全な登下校をさせ、豊かな教育環境を育み、健全な成長をさせることができるでしょうか。

子育てには様々な悩みがあり、保護者だけでは解決できないことがいろいろありますよね。

子どもたちの健全育成のため、子育ての当事者同士が連帯し、先生方とも子どもたちを取り巻く状況・情報の共有をしながら学び合える場が必要となり誕生したＰＴＡ。その活動は一人の百歩より百人の一歩でできることを皆で分担すれば各負担も軽減されます。

また、連絡や活動をするにもなにがしかの費用がかかりますが、会費という形で費用分担することで活動の進展ができます。子どもたちの健やかな成長を願って、多くの保護者と先生方が連携・協働し、互いに学び会いながらＰＴＡ活動をする姿は、子どもたちにとって大きな安心感を与えると共に、健やかな成長に大きく寄与することでしょう。

分担しながら・得意なことを・効率的に

運営は学校ＰＴＡによって様々ではありますが、会員の中から選出された役員が中心となり、活動や行事毎に担当を決めて分担をしながら行うことが一般的です。それぞれが得意な分野などを担当しながら協力をして運営を行います。

ＰＴＡの組織は会長を先頭に、副会長、会計、庶務などのいわゆる本部役員と会報（広報）や校外指導（登下校）、家庭教育などを担当する専門部の役員にて構成されることが多いです。事業や行事を担当する専門部や委員会を設けて、効率的に運営できるよう工夫されています。

また、ＰＴＡ活動の予算は会員から集めた会費によって運営されています。年度毎に事業計画と予算を作成し、計画に合わせながら、会を運営し年度末に決算を行います。

こどもの成長が見られる　友だちができる　学校がよくわかる

まず、ＰＴＡ行事に参加することで学校に行く機会が増え、学校のことがわかりだします。先生の名前や学校の環境を知ることで、子どもの学校での様子が子どもの話の中だけではなく、実際によく分かります。

また、同じ年代の子どもをもつ保護者と話す機会が増え、子育ての悩みや喜びを話すこともできます。同じ学校や地域に、子育ての友だちが増えることが、子育てにはとても心強いです。

ＰＴＡの参加は、先生方のお手伝いにもつながります。子どもにとっても、多くの大人たちが近くで見守って応援しているという環境は、とても安心することです。

応援メッセージ

出来ない理由を探さず、出来る工夫を

保護者　**西村　澄子**

「活動したからこそ、子育ての楽しさが味わえた！」と実感します。

“子どもの成長”という戻ることが出来ないかけがえない時間を、子どもの近くで一喜一憂しながら関われたことと、ＰＴＡ活動で出会った多くの子育ての仲間が、私の宝物となっています。

出来ない理由を探さず、出来る工夫を考え、まずはPTA活動に参加してみましょう！

ＰＴＡ活動で知り合いの輪を広げましょう

保護者　**中村　敏徳**

ＰＴＡ活動をやってみて良かったこと、それはたくさんの友だちができたことです。

自分と知り合いになれる範囲って、全世界で考えたらほんの一握りの人たちなんでしょうけど、そんな「一握り」の人たちはてとてもとても大切な存在だと思います。

ＰＴＡでの活動を通じて、その「一握り」の大きさを少しでも広げられる、そんな感じがしています。

是非ＰＴＡ活動で知り合いの輪を広げてください。

つながりは喜び、そして宝物

元日本人学校校長　**叶　貞夫**

面積1.1km^{2}の島のへき地校、１学年630名（１学級45人で14クラス）の大規模校、２カ所の海外日本人学校など、全部で７校勤務しましたがどこにも未来を受け継ぐ子どもたちがいて、その保護者の皆さんに学校を支えていただきました。どこでもＰＴＡは最高の学校応援団でした。

保護者の皆さん一人ひとりは、子どもたちと教師集団の無二のサポーターです。子ども同士がつながる。保護者と教師がつながる、保護者同士がつながる。他校ともつながる。つながる集団、それがＰＴＡです。つながる喜び、つながることができたら、それは宝物になります。

日本ＰＴＡは、平成30年に創立70周年を迎えます

公益社団法人　**日本ＰＴＡ全国協議会**
〒107－0052　東京都港区赤坂７丁目５番38号　TEL　03－5545－7151　　FAX　03－5545－7152
E-mail：info@nippon-pta.or.jp　Home-Page：http://www.nippon-pta.or.jp/

イラスト：青沼貴子